

鉄道ピクトリアル

2014年4月号 Vol.64 No.4 通巻No.888

<特集> JR南武線・青梅線

■表紙 JR南武線の205系……………進藤 匡

南多摩 2014-2-1

キヤノンEOS-1DsMark III EF70-200mm F4L 絞りf7.1 タイム1/500 ISO200

■グラフ

多摩川を辿る (1~8ページ)

松田 巧・加藤和毅・河原慶明・浜村正弘・佐藤利生
……………戸塚光弘・金子 聡・太田正行・小林 拓・進藤 匡
大里信之・早川昭文・吉澤佳久

思い出の南武・青梅線 (84~87ページ)

……………小林 武・佐藤利生・千田正哉・太田正行・静 拓志
……………浜村正弘・岸 孝・杉崎健一・進藤 匡・真鍋裕司

南武線貨物ルート (88~89ページ)……………構成：編集部

*

一九四〇~五〇年代 青梅線・南武線の記憶

……………伊藤 昭・伊藤成信… 25

南武・青梅線で活躍した旧形国電

……………写真：太田正行・遊川 清ほか… 30

南武・青梅線の電気機関車……………写真：石田和明・並木昭夫ほか… 34

橋上化前の立川駅……………写真：進藤 匡ほか… 38

南武線散歩……………構成：編集部… 40

米軍横田基地への燃料輸送線……………写真と解説：小野打 真… 44

青梅鉄道時代の記録から

……………撮影：並木幾三郎、所蔵・解説：河原慶明… 46

*

Pictorial Color Gallery あげぼの狂詩曲……………藪下 茂樹… 81

[総合車両製作所 国内向け sustina 第2弾 日本初の営業用] 90~93

[蓄電池電車が完成/富士急行2000系第2編成引退ほか] 100~101

トピック・フォト (各地・関東・中部・関西)……………94

2014年各地の初春列車から……………102

■本文

今月の話題：JR南武線・青梅線……………編集部… 9

南武線、青梅線の歴史と川崎の鉄道……………山田 亮… 10

立川駅の移り変わり……………祖田 圭介… 20

南武鉄道の車両史……………澤内 一見… 49

南武線と青梅線—その地理的、歴史的興味—……………今田 保… 62

JR東日本中原電車区 南武線・南武支線用205系・209系電車の現況

……………日向 旭… 70

*

鉄道の話……………編集部… 24

満鉄レールの宝庫—中国・大連天の川発電所専用線—大島 一郎… 78

思い出の客車寝台特急……………河 昭一郎…105

絵葉書が描く地方私鉄の昔むかし(4) 布引電気鉄道……………白土 貞夫…110

JR東日本E7系・JR西日本W7系

……………JR東日本鉄道事業本部運輸車両部車両技術センター……………112

……………JR西日本鉄道本部車両部車両設計室

JR東日本キハ110系「TOHOKU EMOTION」……………桃野 秀章…122

1月のメモ帳……………127

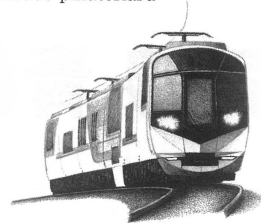
読者短信・情報ファイル……………128

後部車から……………132

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット：山本茂樹

JR南武線・青梅線

川崎を起点に川崎市域を縦断し、立川に至る35.5kmと尻手—浜川崎間4.1km、尻手—新鶴見—鶴見間の貨物線5.4kmで形成される南武線。その終点、立川から奥多摩に至る37.2kmの青梅線、どちらも東京の郊外、多摩川流域に位置するJR東日本の通勤路線である。前身は両線とも私鉄路線であり、戦時買収されたいわゆる買収国電線区としての歴史を持っている。南武線は初開業が1927(昭和2)年、青梅線は蒸気鉄道として1894(明治27)年で、その後改軌・電化された経緯を持ち、歴史を紐解けば両線は大きな繋がりを有していることがわかる。すなわち、青梅・五日市・奥多摩地区で産出される石灰石、セメント、および多摩川で産出される砂利を京浜工業地帯へ輸送する貨物輸送において、戦前・戦中から戦後まで重要な役割を担い、一元的に結ばれていたのである。

こうした歴史的視点に基づき南武・青梅両線を見ると、沿線地域の開発・発展はもとより、広く鉄道が産業振興に果たしてきた役割、社会と鉄道の関わりという側面を垣間見ることができ興味深い。かつては買収国電路線として独特の趣き、文化も感じ取ることができた。とはいえ、石灰石や砂利輸送がなくなった今日では、一部の貨物輸送や臨時列車の運転を除いて、南武・青梅両線の輸送上の接点は希薄となり、通勤路線として発展を続ける中、買収国電路線の雰囲気も消えつつある。南武線は高架区間も増加して変貌著しく、青梅線は中央線と一体的な輸送が行われ、通勤通学に奥多摩の観光・行楽輸送も加わり、どちらも東京圏鉄道ネットワークの欠かすことができない路線として成長を続けている。なお、本特集では南武・青梅線に加え、五日市線も関連性が深く、一部で包括して構成している。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlight Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan